



Title	近代的経営管理論の批判的研究：経営組織における正当性を中心として
Author(s)	小林, 敏男
Citation	大阪大学, 1991, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/29161
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

【1】

氏名・（本籍）	こ　　ばやし　　とし　　お 小　　林　　敏　　男
学　位　の　種　類	経　済　学　博　士
学　位　記　番　号	第　　9　5　0　7　　号
学位授与の日付	平　成　3　年　2　月　15　日
学位授与の要件	経済学研究科　経営学専攻 学位規則第5条第1項該当
学位論文題目	近代的経営管理論の批判的研究－経営組織における正当性を中心 として
論文審査委員	(主査) 教　授　北野　利信 (副査) 教　授　中村宣一朗　　助教授　阿部　武司

論　文　内　容　の　要　旨

本稿は、いわゆる近代的経営管理論が実践原理として応用され続けるときには、不平等感が蔓延し、こうした感情が引き金となって、産業社会がアノミー化する恐れがある、という現状認識に立ち、その打開策として経営に、「正当性」の感覚が創発しそれが維持されるような討議のルールと、このルールを補強するために必要な構造条件が導入されるべきであるということを提唱するものである。ここに言う正当性の感覚とは、協働他者への平等な配慮のことであり、換言すれば、他者の立場に立って思考しようとする努力のことである。

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

本論文は、自由で平等な諸個人による合理的な協働、すなわち「経営 Betrieb」の視点から、近代的経営管理論をそれが依って立つ認識論にまで遡って批判的に検討し、法理学でいう「正当性 justice」の理念のもとに理論の再構築を図るものである。発想の斬新さと理論展開の堅実さに鑑み、博士論文としての価値を認定する。